

## 2006年度生 修了おめでとう

### 「修了生へのメッセージ」

第2期生の皆さん、修了おめでとうございます。学部での4年間と比べると、大学院での2年間はあっという間に過ぎてしまったと思いますが、内容的には充実した2年間であったと思います。特に、ワークショップなどの少人数教育の場では、授業の準備、教授の先生や学生との意見交換やディスカッションを通じて、他のところでは得られない貴重な経験を積めたものと確信しています。

社会で仕事に就いた後も、皆さんが昨日と違う今日、今日と違う明日を目指し、常に学び、考え、新しいことに挑戦していってもらえたらと願っています。私の考えによれば、仕事をしていく上で本質的に重要なこととそうでないものがあるので、何が本質かを見極め、本質と思える所では手を抜かない、周辺のなどうでも良いところは譲っても、本質的な部分は譲らずに自分の考えを押し通すことが大事だと思います。皆さんが今後それぞれの個性と専門的能力を活かしてさまざまな領域で大いに活躍していくことを願っています。



研究科長  
小林啓孝

### 「大学院生活を振り返って...」

上籠マリ恵 (会計研究科2年)

月日が経つのは早いもので、会計研での学生生活も残すところ修了式を迎えるのみとなってしまいました。私は、学部時代から早稲田大学に所属していたので、18歳のとき東京に出てきて6年という時間をこの早稲田の地で過ごしたことになります。

学部の前半は何をやりたいかも明確でなく、2年生の秋にゼミの選考が始まる直前になってようやく(まだ漠然とはありますが)考えるようになりました。そのころから、公認会計士になってマネジメントをやりたいと思うようになり、清水先生の管理会計のゼミに応募したのです。そして学部の卒業が近づき、会計や監査の知識をもっと身につけたいという思いが強くなったため、会計研に入学しました。

会計研では、会計・監査科目を中心に、今までの知識に実務的な視点をプラスできたのではないかと思います。特に、2年生の秋学期で履修したワークショップでは、プレゼンテーションなどの発表の機会も増え、時間もかかり大変な作業もありましたが、受身の授業では得られないものを得られました。中でも監査実務ワークショップでは、今まで自分がどれだけ新聞等の報道に惑わされ、真実を見ようとしていなかったかということや、自分の持っていた知識がいかにか表面的なものであったかということに気づかされました。また、事業戦略管理会計ワークショップでは、学部ではあまりできなかったケーススタディを通して自分の英語力や管理会計の知識の曖昧な部分を改めて認識することもできました。

私は会計士試験に合格することが当面の目標ではありますが、学部や会計研で学んだことを活かし、将来的には地元の鹿児島で中小企業のマネジメントサービスに携われたらいいなと考えています。





新しい科目をのぞいてみよう！

担当教員からのメッセージ



### 株主価値創造理論とIR

やなぎ りょうへい  
(柳 良平 UBS証券)

2008年度春学期より、「株主価値創造理論とIR」というテーマで講義を始めさせていただきます。本科目では、上場企業のミッションである株主価値創造と投資家との対話であるIRにつき、昨今注目を集めるアクティビストの最新動向も含めて、マーケットの中心に位置する実務家の立場からかなり実践的なお話をします。そして、「会社とは誰のものか」「株主価値とは、など財務、会計のプロを目指す皆さんの根底に係わる問題を議論していきます。講義は独自の財務戦略マップに沿って進めますが、世界中の投資家の生の声も紹介しながら、ここでしかできない「真の資本市場の世界へようこそ！」という内容にして、刺激的な「新風」を吹かせる野望(?)を抱いています。本科目の履修により、株主価値の重要性を認識することは、金融機関はもちろん、上場企業で「財務・会計の専門家」としてのキャリアを形成する上でも必須であると思います。あるいはコンサルタントや監査人としても同様でしょう。

本講義では管理会計の枠を広げて、企業経営の根幹をなす株主価値やガバナンス、IRにつきマネジメントに提言できるような会計・財務の専門家を養成したいと思っています。講師は、都市銀行ニューヨーク勤務、大手メーカー財務部長などを経て、現在、外資系証券会社で外国人投資家と日系企業のコミュニケーションを促進する立場にあり、皆さんのキャリア形成に役立つアドバイスもしたいと思っています。



### 経営財務

なかさと むねのり  
(中里 宗敏 青山学院大学 国際マネジメント研究科 教授)

2008年春学期から「経営財務」を担当いたします。経営財務という言葉は「Corporate Finance」の訳語です。最近では「コーポレート・ファイナンス」とカタカナで表記されることも多くなってきました。ファイナンスはミクロ経済学の一領域と位置付けられることが多いのですが、その内容を考えると、経営学、経済学、そして工学の諸分野にまたがる境界領域であるとも考えられます。たとえば、企業価値を考える場合、ファイナンスではその企業が将来生み出すであろうキャッシュフローを予想し、それを現在価値に換算することで価値を測ろうとします。一方、会計学では企業におけるお金の動きを漏れなく記録し、それを積み上げることで企業価値をとらえようとします。同じ企業価値に対しても異なる二つのアプローチがあるわけですが、そのどちらも単体では完全な評価とはなりません。これらはどちらか一方を選ぶといった排他的なものではなく、むしろそれぞれの長所と限界を理解した上で両者を補完的に用いるべきです。確かに、近年の会計では時価の考え方が大きく取り入れられてきていますし、ファイナンスにおいても会計情報がキャッシュフロー評価のベースとなっています。

この授業では広くFinanceの分野を概観し、主要な概念や理論を理解することを目的とします。受講する学生の皆さんには、ファイナンスの面白さを少しでも感じていただけたらと思います。

## Communication for Accounting Professional & Professional Presentations (Daniel Dolan)



Greetings Waseda Accounting students,  
This is Daniel Dolan, Professor of Business Communication,  
Graduate School of Accounting, Tohoku University.

I am excited to offer you two new courses beginning second semester this year (Fall Semester). I hope that you will join me for one or both of these adventures. Both courses will be interactive, challenging, and best of all will be in English! As you know, your ability to communicate effectively in English will be very important for your future career in accounting. For example, accounting professionals in Japan need to be able to offer ideas and opinions about international accounting standards and other issues during international conferences and meetings. You also probably will be asked to give presentations in English during your professional work. The two courses I will teach will give you skills and confidence as you prepare for international, English-speaking accounting activities. I will always speak English in both courses, but I have no rule against students speaking Japanese to each other during discussions or to ask me questions. It is very important for you to talk with each other and ask questions so that you can learn, so I do not care if you sometimes speak Japanese (or French or Greek). Here are the two courses:

In Communication for Accounting Professionals we will learn English language accounting concepts, terms and practices by examining famous US accounting scandals. Our textbook is fun to read, and we will have a lot of time during classes to discuss difficult ideas. You will be surprised to learn some of the amazing things that happened during these scandals, including complicated but illegal accounting tricks. You will read one chapter before each class, and you will give me short homework assignments (usually no more than one typed page) at the end of each class.

In Professional Presentations we will learn effective presentation skills, with a focus on active learning through practice. This is not an English conversation class, so your English pronunciation, grammar and vocabulary are not the most important skills you will need. Instead, you need to bring your good thinking and energy to class every day. It is a class for developing ideas and strategies for creating and delivering powerful presentations in English. Your smart ideas are most important in this class, so do not worry about your English speaking ability. There will be only presentations and short written homework assignments in this class (usually no more than one typed page). There will be no written tests or essays.

ここで紹介した科目はほんの一例です。会計研究科にはまだまだたくさんの科目が用意されています。  
「2008年度講義要項」に掲載されているシラバスを参考にして、履修計画をしっかりと立てましょう。

**科目登録期間** Waseda-netポータルを使用してWEBから履修登録してください。

**新2年生 ワークショップ科目**  
3月19日(水)14:00～3月24日(月) 16:00

**講義科目**  
3月27日(木)～3月31日(月) 16:00

**新1年生** 4月 4日(金)～4月 8日(火)



# コンサルティング実務、ITコンサルティング実務

(貫井清一郎 / 島中洋一郎 / 田中陽一 / 立花良範 / 大川秋生 / 齋藤敏彦 / 河田博孝 / 金子珠恵 / 黒川順一郎)

「コンサルティング」という職業の定義は、非常に漠然としていて、一言で言い表すことは非常に難しい。敢えて表現すると、常に昨日とは違う仕事、違うチャレンジをしている、ダイナミックでエキサイティングな職業。こんな「コンサルティング」の仕事について、学生諸君に少しでも実感していただけるよう講義を進める。

春学期「業務コンサルティング実務」においては、「ハイパフォーマンス経営」をキーワードに、ビジネスを「企業経営」と「事業経営」の2つに分類し、それぞれが持つべき機能についてのベストプラクティスを紹介する。秋学期「ITコンサルティング実務」においては、ビジネスにおけるITの意味をあらためて考察したい。ビジネスを支える基盤としてのITならびに、ビジネスを成長させる商品・サービスとしてのITの両面について、「IT用語」ではなく「ビジネス用語」で語っていく。両学期とも、先端企業で実施している改革の内容や、その達成までの方法論などについて、実際の事例を織り込みながら解説する。

また、講義の中で「学生プレゼン」を春学期に2回、秋学期に1回予定している。これは講師があらかじめ提示したテーマについて、学生が数名でグループを作り、3枚程度の資料を作成し、プレゼンをするものである。このことを通して、それまでの講義内容の理解を深めるとともに、コンサルティング実務を疑似体験して頂く。

講師陣としては、アクセンチュアにおいて様々な領域を担当している9人を選出した。より幅広い内容を網羅できるものとする。

この講義を通じて、コンサルティングという職業についての理解を深めるとともに、「結構ビジネスについても語れる」「ITのことも結構話せる」ようになる一助となれば幸いである。



## PROFILE

ぬくい せいいちろう  
貫井 清一郎

一橋大学商

学部経営学科(岡本清ゼミ)卒業後、  
アーサーアンダーセンアンドカンパニー  
(現アクセンチュア)に入社。

以来、財務・経営管理の領域を中心に、20年間のコンサルティング実務経験を積む。神戸大学大学院客員教授。横浜国立大学非常勤講師。

## 修了生 インタビュー

### 「社会に出て一年」 中里広光

〔 会計研究科第一期生 新日本監査法人勤務  
平成19年度公認会計士試験合格 〕

#### 働きながら勉強すること

会計研究科、在学中には公認会計士試験に合格することができませんでした。試験勉強に専念するかどうか悩みましたが監査法人で働きながら試験勉強をする道を選択しました。実際に監査法人で働きながら勉強してみると、さすがに決算の時期はほとんど勉強する気分になれませんでした。そんな時は会計研究科の講義で配られたレジュメを眺めたりしていました。会計研究科の講義のレジュメなどは効率的に学習するのに役に立つと思います。

#### 監査法人での仕事内容

監査法人に入所してはじめてのころは、実際の業務内容とこれまで勉強してきたこととの違いに戸惑いました。例えば、今までは問題文に与えられていた金額について何の疑念も抱かずに仕訳を行っていました。しかし、その金額が会社内部のどのような手続きを経て計上されるのかまでは考えてこなかったため、会社にどのような証憑類があるかもわかりませんでした。ほかにIT関連等いろいろわからないことがありました。会計研究科には実務家の先生の講義やPCを使用した講義もありましたので、もう少し真剣に講義を聞いていればあまり戸惑わなかったかもしれません。会計研究科の講義では、基準のできた背景や、基本的な考え方で学習することができます。そのような学習方法は実務においても新たな会計基準が制定されたときに役立つと思います。

#### 最後に

会計研究科に入ってよかったことは、多くの仲間ができたことです。現在、所属している監査法人には、会計研究科の第1期生だけでも約20人います。在学生の方々にも同じ仲間としてアドバイスできることがあればしていきたいと思っています。

